

令和6年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立宮原中学校）			学校番号	227	【様式】
目指す学校像		歴史と伝統を継承し、生徒一人ひとりが「夢と希望」「自信と誇り」をもてる教育を推進する学校			
重点目標	1 ICTを活用した授業の改善とわかる授業の実践を踏まえた学力の向上				※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
	2 生徒指導、教育相談の充実と施設・設備の点検、修繕による安心・安全な学校生活の確保				
	3 コミュニティ・スクールとして、地域、保護者から信頼される学校づくりの推進				
	4 教職員一人ひとりの資質向上と教職員事故を未然に防ぐ取組の実践				

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1 学びの質の向上	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、数学が市平均を上回り、国語は市の平均と同じである。 ○市の学習状況調査において、思考・判断・表現に関する評価の観点は、国語が72%、数学が55%で、市平均（国語73%、数学56%）に近い正答率である。 ○ICTを活用した学習については、意欲的に取り組む生徒が多く、授業中も自信をもって発表できる生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の「読むこと」の力に若干弱さが見られる。 ○生徒アンケートの結果より、家庭学習の習慣化に課題が見られる、	・ICTを活用した個別最適な学びに向けた授業改善	①スタディサブリを活用することにより、家庭においても、一人ひとりの理解度に応じた内容を学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査の結果を生徒が把握できるようにする。 ③全国学力・学習状況調査の結果を分析して授業に生かす、教職員研修を行う。	①全教科(5教科)で、授業や家庭学習におけるスタディサブリの活用を、一人ひとりの理解度に応じて、定期的、継続的に行うことができたか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、学習状況を把握し、次の目標を立て、その達成に向けて学習できるようになったか。	①スタディサブリの活用率 R6 9月48%、10月74%、11月60%、12月51% R5 9月28%、10月30%、11月38%、12月49% 授業動画の視聴、課題への取組が増加した。 ②全国学力・学習状況調査における正答率は、ほぼ市の平均値と同じ値であった。 ③教職員が学力向上カウンセリング研修を実施し、調査結果の見方や活用の仕方について、見識を深めた。	B	①ICTを活用した授業により、基礎的基本的な知識の定着を図るとともに、協働的な学びを通して自分の考えをよりよく見直す力を育成する授業を行っていく。 ②基礎的な問題解決力及び思考力・判断力・表現力を高める授業を行う。 ③学力調査の結果を分析し、求められる資質を生徒に育成する。
		・わかる授業の実践を踏まえた学力の向上	①「学びの指標」アンケートの結果をもとに、教職員が授業の改善に向け積極的に取り組む。 ②授業におけるICT機器の活用状況を把握するとともに、校内研修や各教科会において効果的なICTの活用について研究を進める。	①学期に1回のアンケートを実施し、各項目について、ICT等に係る教職員の授業改善が見られたか。 ②定期的にICT機器を活用した授業を公開するとともに、その活用方法について研究協議が行えたか。	①「学びの指標」アンケートの結果 主体的な学び3.29(3.13) 探究的な学び3.26(3.22) ICT活用 3.06(2.93) 基礎的定着 3.46(3.40) 本校の数値(市の平均)は、市の平均をいずれも上回った。 ②授業に活用できるソフトについて、教職員に向けた研修を学期に1回以上行った。	B	①「わかる」「たのしい」を実感できる授業を実施し、非認知能力や自己肯定感、学習意欲を高めることを重視することで学力向上に取り組む。 ②ICT機器の活用により、効率的かつ個別最適な学習が進められるよう、指導していく。
2 子どもの発達やこころのサポート	(現状) ○市学習状況調査で、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は、90.2%と市平均(91.7%)を若干下回った。 ○施設・設備については、老朽化している現状があり、子どもたちが安心、安全な環境で生活できるようにするためには、改善、修繕すべき箇所がある。 (課題) ○昨年度、30日以上長期欠席者の割合は、全体の9.4%であった。 ○毎月の安全点検は適切に行われている。費用の掛かる修繕箇所については、市教育委員会と連携し、改善を図る必要がある。	・積極的な生徒指導により生徒一人ひとりへ適切な指導が行える校内指導体制の充実	①生徒指導委員会、教育相談部会をそれぞれ週1回開催し、生徒指導上の課題や配慮すべき生徒についての情報を共有し指導方針を確認する。 ②心と生活のアンケート実施により、全校生徒一人ひとりの状況を把握し、課題のある生徒に対して、保護者や専門機関と連携し、対応に当たる。	①各委員会等の定期的な開催ができたか。また、生徒指導上の課題を適切に処理解消にすることができたか。さらに、不登校生徒数を減少させることができたか。 ②心と生活のアンケートにおいて要面談生徒数が、第1回と比較して減少しているか。また、設問3やいじめに係る問いに回答する生徒が減少したか。	①欠席30日以上生徒率(R5_99/1055(9.4%)→R6_92/1066(8.6%))。いじめ事案解消率(R5_7/14(50%)→R6_13/17(76.4%))。 ②心と生活のアンケート結果より、すべての生徒と担任での二者面談を実施した。学期に1回計3回で、対象の生徒数に大きな変動は見られなかった。個々の生徒の状態を早期に発見し対応していく。 第3回結果：信頼自己99名(8.5%)、元気度13名(1.2%)、ソーシャルサポート15名(1.4%)、設問314名(1.3%)、いじめ被害7名(0.6%)、要面談105名(9.8%)	B	①生徒指導では、初期対応として生徒及び保護者からの丁寧な聞き取りを行っていく。また、教育相談では、生徒の悩みに寄り添い自己肯定感を高める手立てを講じていく。 ②心と生活のアンケート結果、緊急度の高い生徒は保護者と協働して対応に当たる。また、全生徒への二者面談は継続して実施する。
		・施設・設備の点検、修繕等による安全な教育環境の確保	①月1回の安全点検により、修繕箇所を把握し、予算等を考慮し優先順位を決めて修繕を行う。 ②授業や委員会活動をととして、校内で生活する際の安全について意識を高める取組を行う。	①安全担当を中心に、管理職、事務職も加わり、施設・設備の状況把握を行うことができたか。また、適切な予算運用のもと修繕が行われたか。 ②安全について、生徒も参加した活動が実施されたか。	①安全点検により、教室廊下の危険箇所の修繕を行った。南棟トイレ、体育館バスケット、舞台緞帳、西門レール、外トイレ様式化、植栽の剪定(東側、職員玄関前) ②避難訓練を学期に1回実施した。引き渡し、竜巻対応訓練、不審者侵入対応訓練。	B	①危険箇所及び教育活動に支障のある等を見極め、優先順位を定めて教育委員会と協働して修繕を行っていく。 ②学期に1回、必要に応じた訓練を継続していく。
3 教育環境の整備	(現状) ○コミュニティ・スクールの目標を「地域に愛される子どもの育成」とし、目標を柱に地域全体で協力していくことを確認し、取組を進めている。 ○学校だよりや学校ホームページを活用し、本校の教育方針や教育活動の様子を地域、保護者に周知するよう努めている。 (課題) ○コミュニティ・スクールの取組について、一層、保護者や地域にその目的や内容について周知し、理解と協力を求める。 ○コミュニティ・スクールにおいて、学校、地域、保護者がそれぞれの立場で何ができるかを、共通認識を持って、考え、実行する。	・保護者や地域に対して、教育方針や教育活動内容等を周知する機会を充実する。	①学校ホームページ、学校だより等を活用し、学校、学校運営協議会、夢チャレンジスクール宮原等の取組について周知し、保護者、地域のコミュニティスクールへの関心を高める。 ②生徒会本部役員が学校運営協議会で、生徒会活動について報告する機会を設ける。	①月1回以上、ホームページの更新、学校だよりの発行を行い、学校に係る情報提供を行うことができたか、また、保護者アンケートの「教育方針をわかりやすく伝えている」について、肯定評価が90%を上回っていたか。 ②学校運営協議会で、生徒会本部役員生徒が、生徒会活動について報告する機会を設けることができたか、	①「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」肯定的評価(84.0%→85.3%) 「学校は、教育活動を積極的に公開している」肯定的評価(81.05→88.2%) 宮原まつり神輿渡御、公民館主催コンサート出演、北区まつり参加、により、生徒の活動を地域へ公開するとともに、レッツジョインクリーン活動をととして街をきれいにすることに協働して取り組んだ。 ②学校運営協議会で、生徒会の取組を報告することができた。	B	①学校ホームページでは、たよりの更新、熱中症対応の周知、日々の学校活動の周知などの更新を行った。教員の繁忙期に更新が滞ることがあったので、定期に更新できるよう進める。 ②学校運営協議会、生徒会、PTAで協働して実施できる取組や企画を工夫していく。
		・熟議の充実を図り、学校、保護者、地域が協働で行う取組を再構築する。	①学校運営協議会の熟議に生徒が参加する機会を設定する。 ②保護者、地域の協力を得て「あいさつ運動期間」を継続実施する。 ③保護者や地域の方が生徒の活動を参観できる機会を設定する。	①学校運営協議会の熟議に生徒が参加できたか。 ②「あいさつ運動期間」を適切に設けることができたか。 ③学期に1回以上、授業や行事を保護者等へ公開することができたか。	①生徒の授業と、運営協議会の実施時間の調整がつかず、運営協議会の熟議に生徒を参加させることはできなかった。 ②「家庭でも、さわやかなあいさつができている。」(79.0%→80.0%) 「あいさつ運動期間」には、生活委員、生徒会を中心に取り組むことができた。 ③学期に1回以上、授業や行事を保護者へ公開できた。	B	①会食の時間を使って、運営委員と生徒が日頃の学校の様子等について話し合いができる時間を作っていく。 ②学校に関わってくれる地域の方を増やすことで、あいさつの輪を広げたい。 ③学期に1回以上、学校公開を実施する。
4 教職員のキャリア形成	(現状) ○教職員の世代交代が進む中、特に若手教職員の育成を積極的に進めている。 ○教職員事故を未然に防ぐため、定期的な研修を行い、意識を高めている。 (課題) ○ICT機器の活用力については、教職員間で個人差がある。 ○他校の教職員事故を他山の石としてとらえ、互いの校務にもち協力して事故防止を図ることが重要である。	・年齢や経験年数に応じた、授業力向上及び校務に係る研修の実施 ・教職員事故防止に向けた校内研修の充実	①年次研修、各種研修会への教職員の参加を奨励し、教職員が自身のスキルを向上する機会を確保する。 ②校務に必要な知識や技能を、校内研修において、講師を招聘したり、校内教職員を指導者としたりして研修を実施する。 ③教職員事故防止に係る市教委のテキストを活用して、定期的に校内研修を実施する。また、事故防止のため、教職員が互いの校務に関心をもち、互いの用務について確認を行う。	①年次研修を確実に受講し、その成果を校務に効果的に生かすことができたか。 ②タブレット端末を活用した研究授業や公開授業をすべての教職員が実施できたか。また、校内研修の実施方法を工夫し、効果的な研修を実施することができたか。 ③各学期において、教職員事故防止に向けた校内研修を実施することができたか。	①初任者研修3名、5年次研修2名が受講し、キャリアに応じた見識を深めることができた。 ②教育委員会による指導訪問の機会に、タブレット端末を活用した公開授業をすべての教職員が実施した。 ③各学期および、事故が心配されるタイミングで、管理職より教職員事故防止に向けた研修や注意喚起を行うことができた。また、学校評価、いじめ防止基本法、全国学力学習状況調査に係る研修を講師を招聘して実施し、見識を深めた。	B	①教職員の興味関心やキャリアに応じた研修の機会を与えていく。 ②時代に応じて求められるスキルを、教職員が身につけられるよう、校内研修の内容を工夫して実施していく。 ③事故が心配されるタイミングで、適切な対応ができるよう、管理職を中心として、分掌の主任やミドルリーダーも含めて注意深く業務を行っていくよう、組織の意識を高めていく。